



DATE. 2010.1.11

●● 様へ

△△ちゃんの検査結果ご報告

△△ ちゃんの検査結果について、ご報告させていただきます。

検査で認められた異常な点および問題点

1. 嘔吐、吐血→下行十二指腸に異物像あり
2. 脱水、CRP上昇、GPT上昇、Amy上昇→異物に関連していると思う
3. 尿比重の低下→前日に点滴をしているため
4. 気管狭小化
5. 多数の椎体奇形

コメント

△△ちゃんの検査結果ですが、嘔吐の原因は腸管閉塞にあると思われます。腸閉塞の原因は異物が腸管につまった、腸管の腫瘍、炎症性腸疾患などがあげられますが、嘔吐物にコングが混じっていたことから一番は異物が疑われます。△△ちゃんの場合、閉塞（嘔吐）が起こってから数日たっている、脱水していることもあり早期の開腹手術による閉塞部分の確認、摘出が望ましいでしょう。

気管がやや狭いですが短頭種では狭い傾向にあるため△△ちゃんも短頭種由来のものと考えます。特に夏場は熱中症など呼吸器症状には気をつけましょう。

胸椎～腰椎にわたり多数の椎体の奇形が認められます。これは短頭種に多く認められるものですが、無理をすると不安定性から脊髄へのダメージが生じたり椎間板ヘルニアなどになるので激しい運動は避けましょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・

京都中央動物病院

院長 村田 裕史

〒600-8357

京都市下京区五条通柿本町 582-3

電話&FAX 075-821-1020

E-mail : k-chuo@r6.dion.ne.jp

URL : <http://www.k3.dion.ne.jp/~k-chuoah/>

・・・・・・・・・・・・・・・・



DATE. 2009.10.29

■■ 様へ

◎◎ちゃんの検査結果ご報告

◎ ◎ちゃんの検査結果について、ご報告させていただきます。

検査で認められた異常な点および問題点

1. フィラリア寄生から起こった三尖弁閉鎖不全・肺動脈弁閉鎖不全→右心不全と肺に血管・混合パターン
2. 右心不全から起こったうっ血肝と変性漏出性腹水
3. 右胸部に存在する皮膚 mass → FNA からは脂肪腫を疑う
4. 左大腿部に皮膚病変

コメント

腹部膨満で咳をしているとのことで、精密検査を行ないました。問題点としては、1.2のようにそのほとんどの問題がフィラリアに起因しているものであることが確認されました。まず、心臓ですが、今の段階では、フィラリア虫体は、心臓内には存在しません。つまり、ベナケバ症候群を生じているわけではないため、緊急手術は不要でしょう。虫体により心臓の弁膜が変性しており、そのために、臨床症状が発現しています。この治療としては、1. ACEI (エナラプリルやベナゼプリル) 2. ジキタリス 3. 利尿剤 (フロセミドなど) 4. 気管支拡張剤 (テオフィリンなど) を用いて治療します。また、肺動脈への炎症や臨床症状の緩和のためにステロイドを併用することも一般的です。その他にも、症状によっては追加の治療が必要な場合もあります。また、これ以上のフィラリアが寄生しないように、予防薬を飲ませることも良いでしょう。今の症状とは無関係ですが、さらなる肺病変の進行を防止し、血栓症のリスクを下げるために、状態が安定したら、フィラリアの成虫駆虫も長期的な予後を改善する可能性があります。

3の皮膚 Mass ですが、FNAの結果からは脂肪腫を疑います。サイズがこのままであれば経過を観察するのみで良いでしょう。

.....

京都中央動物病院

獣医師 渡邊 高司 (ワタナベ タカシ)

.....



DATE. 2009.8.01

◇◇ 様へ

××ちゃんの検査結果ご報告

×× ちゃんの検査結果について、ご報告させていただきます。

検査で認められた異常な点および問題点

- 1. 腎結石（左右）→腎不全初期
- 2. 嚢胞腎（左右）→腎不全初期
- 3. 肝嚢胞
- 4. 肝臓に結節

コメント

××ちゃんの検査結果ですが、腎不全が始まっています。原因の一つは嚢胞腎で腎臓の実質に多発性の嚢胞が形成される疾患です。原因ははっきりとわかっていませんが一説によると遺伝性といわれています。時間経過とともに、大部分の嚢胞は大きさと数を増し、しばしば隣接する正常な腎実質を圧迫するため、腎不全になります。腎臓の嚢胞を切除することや腎摘出は行えませんので、治療は嚢胞形成から続発する腎不全や感染を細小限に抑えるということとなります。もう一つの原因は腎結石で感染や食餌性により発生します。腎結石の中には臨床症状を起こさず進行しない非活動型もありますが、血尿、腎不全がありますので治療を要すると思います。主に腎不全の治療となります。肝機能によって治療薬が変わるおそれがありますので肝臓の精密検査を待ちます。

肝臓は3～5個の嚢胞が確認されます。肝機能の数値は正常ですが、エコー検査において肝臓の構造破壊が進んでおり、このまま進行すると肝不全を起こす可能性があります。胆管の近くでもありますので精密検査を行なうとともに、残りの肝細胞を温存するために強肝剤の内服や処方食をおすすめします。また、一カ所に結節が出来ており大きくならないかを定期的に画像診断にて見ていく必要があります。

腎臓、肝臓を含めて2—6カ月ごとに、嚢胞や結節の大きさと随伴する異常（例：腎不全、腎臓の感染、疼痛）について監視しなければならないでしょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・

京都中央動物病院
獣医師 中村 美穂

・・・・・・・・・・・・・・・・